

## 基本仕様書

### 1 委託業務名

令和8年度（2026年度）熊本市EBPM支援等業務

### 2 目的

本市は、令和6年3月に「熊本市データに基づく事業立案等推進戦略」を策定し、データリテラシーの向上に資する人材育成や環境整備を進めることとしている。

このことから、取組をけん引し、より効果的に推進していくために、庁内において取組や事例を創出し、共有しデータ利活用推進の取組に理解を持つ職員を増やすことで、各部署が自主的に事業や取組を立案するサイクルを確立していくため、EBPM等の事例創出を進めるもの。

また、合わせてデータに基づいて物事を分析し、課題の現状把握やエビデンスに基づいた事業の立案等を行うなど、適切かつ積極的にデータを利活用する人材の育成を目的として、人材育成研修等を実施するもの。

### 3 履行場所

熊本市内及び受託事業者社内

### 4 履行期間

契約締結日から令和9年（2027年）3月31日

### 5 業務内容

#### (1) EBPM実践支援業務

下記により、データを活用して事業や取組の立案・改善・効果の検証等を図る所管課へのデータ分析及びデータ分析結果を踏まえた企画立案等の実践支援を行うこと。

#### ア. 支援対象テーマ

別表1に掲げる3テーマ（3部署）を対象とする。

#### イ. 想定プロセス

想定する取組のプロセスは下記のとおり。

(ア) 事業担当者へのヒアリングや先行事例のリサーチ等の情報整理

(イ) 仮説や課題設定、ロジックモデルの作成

※ロジックモデル作成の際は熊本市第8次総合計画と整合を取ることに

(ウ) アウトカム指標の設定

(エ) 必要データの絞り込み

(オ) 必要データの収集・調整（庁内・庁外）

(カ) 分析（データの前処理も含む）

(キ) 分析結果の情報整理、解釈、仮説設定及び説明資料化

(ク) 仮説に基づく有効な解決、対応策等の検討

(ケ) 対応策等の検証指標の検討

#### ウ. 主な役割と体制

(ア) 「実践支援」としていることから、本市職員において主体的に取り組むこととするが、検討が停滞しないよう受託者において議論のファシリテートを行うとともに、進捗状況を踏まえ、適宜資料作成や分析作業等のサポートを行うこと。

(イ) 各テーマに主担当 2 名、副担当 1 から 2 名を設定し支援を行うこと。

(ウ) データの可視化のみならず、因果関係の検証などオープンソース・フリーソフトウェアの統計解析ツールである「R」及び「R studio」等を使用した分析も想定している。

(エ) 令和 9 年度予算編成反映の可能性を念頭に置き、事業所管課の事務手続きを考慮して 9 月下旬には骨格が定まるよう業務を遂行すること。

(オ) 予算編成への反映のみに留まらず、原課における今後の課題抽出等も実施すること。

(カ) 実施する 3 テーマに関する上記プロセスについて、本市の問い合わせ等に対し適切な支援を行うこと。

(キ) 支援にあたっては、オンライン会議対応を可とする。また、実施の際は、Microsoft Teams を使用すること。

#### エ. 業務の進行管理

業務委託内容に関するスケジュールを作成すること。作成にあたっては、進捗管理を行えるように、作業タスクごとに役割分担（委託者・受託者など）を明示するなど分かりやすくすること。

#### オ. 会議体、打合せ等

業務の実施段階に応じて必要な頻度を適切に設定すること。その際の、資料作成準備及び議事録作成は原則受託者が行うこととする。「5 業務内容 (1)」の実施期間中は概ね、1～2 週間毎に 1 回、1 時間程度を想定。

オンライン会議を実施する際は、Microsoft Teams を使用すること。

#### カ. 成果物等

下記 (ア)、(イ) に示す通りとする。

##### (ア) 成果物

- ① 実践支援のプロセス等を取りまとめた報告書（電子データ）
- ② データ等の電子成果物
- ③ その他、業務実施過程の資料で委託者が必要と認めるもの

##### (イ) 納品期限

原則、令和 9 年（2027 年）3 月下旬とするが、詳細については契約後に協議の上、決定する。

## (2) B I ツールダッシュボード作成実践支援業務

下記により、B I ツールを活用しデータ接続、データ可視化・分析、レポート及びダッシュボードの作成を実施する所管課への実践支援を行うこと。

### ア. 支援対象テーマ

別表 2 に掲げる 3 テーマ (3 部署) を対象とする。

### イ. 想定プロセス

想定する取組のプロセスは下記のとおり。

- (ア) ダッシュボード作成のユースケース検討のためのリサーチクエスチョンの設定や、データ可視化の目的等を整理する手法についての説明資料及びワークシートの作成と提供を行うこと。
- (イ) ダッシュボード作成に向けた検討 (ユースケースのブラッシュアップ、使用するデータソース検討、更新性や機械判読性を考慮した使用データの整理・整形の検討などを想定) を行うこと。なお、目安は 30 分×2 回程度×3 ユースケースとする。
- (ウ) B I ツールを活用したダッシュボード作成伴走支援 (操作説明等) を行うこと。なお、目安は 1 時間×2 回×3 ユースケースとするが、フォロー及びサポートを細目に行う必要がある場合は、ショートミーティングを複数回設定する。

### ウ. 主な役割と体制

- (ア) 「実践支援」としていることから、本市職員において主体的に取組むこととするが、検討・作成が停滞しないよう受託者においてファシリテートを行うとともに、進捗状況を踏まえ、適宜資料作成や操作説明等のサポートを行うこと。
- (イ) 各テーマに主担当 2 名、副担当 1 から 2 名を設定し支援を行うこと。
- (ウ) 令和 9 年度予算編成反映の可能性を念頭に置き、事業所管課の事務手続きを考慮して 9 月下旬には骨格が定まるよう業務を遂行すること。
- (エ) B I ツールを活用したデータ可視化方法や技術的な疑義に対する質問に対応すること。なお、1 ユースケースあたり担当部署の職員 1~2 名が参加を想定しており、実施時間及び実施回数は協議の上決定する。
- (オ) 支援にあたっては、オンライン会議対応を可とする。また、実施の際は、Microsoft Teams を使用すること。

### エ. B I ツールについて

- (ア) B I ツールは、Tableau を使用すること。
- (イ) 支援を円滑に進めるため、受託者には、本市調達の Tableau ライセンスより 2 ライセンス付与を予定している。

※ (3) オに示すライセンスと合わせ、合計 2 ライセンス。

### オ. 成果物等

下記 (ア)、(イ) に示す通りとする。

#### (ア) 成果物

- ① 実践支援のプロセス等を取りまとめた報告書（電子データ）
- ② データ等の電子成果物
- ③ その他、業務実施過程の資料で委託者が必要と認めるもの

#### **(イ) 納品期限**

原則、令和9年（2027年）3月下旬とするが、詳細については契約後に協議の上、決定する。

### **(3) データ利活用人材育成のための研修企画・運営・実施**

データの収集・分析・活用に関する知識のみならず、問題構造化や論理的思考法（ロジカルシンキング）など事業立案に必要なスキルの習得を目的とした研修の企画し実施すること。

データに基づいて物事を分析し、エビデンスに基づいた事業の立案等を行うなど、適切かつ積極的にデータを利活用する人材の育成を目指す。

#### **ア. 本市保有のカリキュラム及び研修資料への追加・更新等**

令和7年度に実施した研修内容（別表3）を踏襲することを想定しているが、より効果的と考えられる内容については、協議し内容の追加・更新を行う。

#### **イ. 研修の実施及び運営**

(ア) 実施時間：計10時間程度を想定。令和7年度研修内容（計26時間）をもとに計10時間程度に改編すること。なお、詳細の実施時間、時間の割振りは、協議の上決定する。

(イ) 実施時期：令和8年（2026年）6月中旬から令和8年（2026年）9月上旬の実施を想定している。

(ウ) 対象者：(1) EBPM実践支援業務及び(2) BIツールダッシュボード作成支援業務の対象部署職員、その他参加希望者 計20名程度

(エ) 実施場所：対面及びオンラインにて実施。なお、受託者において上限2回程度の会場手配及び費用負担を想定している。

#### **ウ. 講師の確保・手配**

(ア) 確保する講師は、受託者職員又は外部講師（有識者、他都市職員等）のいずれであっても差支えない。

(イ) 講師派遣の交渉・調整、交通手段や宿泊の手配など講師の確保・手配に係る業務は受託者が行う。

#### **エ. 次年度以降の本市の人材育成の提案**

本研修終了時期に合わせ、令和8年（2026年）9月末を目途に次年度以降のデータ利活用人材に対する継続的な育成について提案すること。

#### **オ. BIツールの操作研修に関する講師ライセンスについて**

(ア) BIツールは、Tableauを使用すること。

(イ) 研修を円滑に進めるため、受託者には、本市調達 Tableau ライセンスより

2 ライセンス付与を予定している。

※ (2) エに示すライセンスと合わせ、合計 2 ライセンス。

#### カ. 会議体、打合せ等

業務の実施段階に応じて必要な頻度を適切に設定すること。その際の、資料作成準備及び議事録作成は原則受託者が行うこととする。

オンライン会議を実施する際は、Microsoft Teams を使用すること。

#### キ. 成果物等

下記、①②のとおりとする。

- ① 追加・更新した場合におけるカリキュラム及び研修資料（電子データ）
- ② その他、業務実施過程の資料で委託者が必要と認めるもの

### (4) 管理職に対するデータ利活用機運醸成のための講師派遣

庁内におけるデータ利活用を促進するために、管理職においてはデータ利活用の重要性や必要性を理解し、職員による利活用の動きをバックアップできるようになることが必要である。

については、データ利活用促進のため、管理職向けのセミナーの開催に係る講師を招聘すること。

(ア) 招聘する講師は本市と協議の上招聘すること。

(イ) 招聘費用については、委託料に含むこと。

(ウ) 開始方式は対面とオンラインを併用したハイブリット形式による実施を想定している。

(エ) 会場の手配（会場費用負担）と開催のためのコーディネートは本市が行う。

### (5) E B P M相談窓口

データ戦略課職員からの、E B P Mに関するデータ分析（各種統計手法）、ログブックの整理、B I ツールの分析操作等の問い合わせに関し、専門的知見に基づく助言等を行うこと。データ戦略課職員からの問い合わせは、基本メールにて行い、回答は翌営業日中とする。メールのみで回答が困難な案件は後日 Teams オンライン会議を実施すること。なお、メール問い合わせ数：50 件程度／年、オンライン会議数：10 回程度／年×30 分程度を想定。

### (6) その他

本委託目的達成のために、受託者と委託者との間で適切な量・質の意思疎通を図る。また委託者は、業務遂行に必要な庁内調整や情報共有を可能な限り行う。

本仕様書に定めのない事項並びに疑義の生じた事項については、本市と受託者で協議の上決定する。

受託者は、本業務の履行に関して知り得た秘密を洩らし、または盗用してはならない。契約終了後においても同様とする。

本業務により作成された成果品に係る著作権等の知的財産権は受託者に留保される。ただし、受託者は、当該成果品について、委託者が履行期間終了後を含め、複製、改変、翻案、頒布等のあらゆる態様により無償で利用できる利用許諾を与えるものとする。また、受託者は、当該成果品に関し、著作者人格権（氏名表示権、同一性保持権等）を行使しないものとする。

別表1（E B P M実践支援対象）

	テーマ名称	担当課	取組の概要
1	地域集会施設の持続可能な再編に向けたデータ分析と利用実態調査	地域政策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域集会施設（公民館、老人憩いの家など）の立地、利用状況（利用者数・利用目的など）、機能、キャパシティ、地域からのニーズ、築年数など現状の整理・可視化</li> <li>●上記に加えて、将来人口推計等も活用しながら、地域集会施設の再編に向けた、方向性や考え方の整理</li> </ul> ※必要に応じてアンケート実施予定
2	熊本城ホールの開業効果の分析（経済波及効果だけではなく効果の測定）	誘致戦略課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●熊本城ホールの利用状況（種別・利用者数など）の整理・可視化（潜在ニーズ・機会の発見も同時に実施）</li> <li>●経済波及効果以外の効果（文化振興や賑わい創出などを想定）の検証 ※必要に応じてアンケート実施予定</li> </ul>
3	中心市街地等における適正な駐輪場の料金体系の検討について	地域交通支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中心市街地に立地する駐輪場の利用状況（利用台数、時間帯や駐輪時間、選択理由など）に関するデータの整理・可視化</li> <li>●短時間無料制度の今後の在り方（継続・廃止・拡充）検討のための調査・分析</li> <li>●将来的な駐輪場の在り方検討（立地、料金、整備や改修、民間参入など）に向けた方向性や考え方の整理</li> </ul> ※必要に応じてアンケート実施予定

別表2（B I ツールダッシュボード作成実践支援業務）

	テーマ名称	担当課	取組の概要
1	こども関連部署の横断的連携のためのこどもを取り巻く課題の可視化	こどもの権利サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こども関連部署（教育委員会、こども局、健康福祉局など）や、国（厚生労働省、文部科学省など）の持つ、こどもを取り巻く課題（不登校など）に関する統計データを整理・集約・可視化する。→横断的連携の土台創り。</li> </ul>
2	児童育成クラブの保有データの可視化	放課後児童育成課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●担当課が保有している放課後児童育成クラブの立地、利用状況（利用者数・年齢など）、キャパシティ、職員配置、築年数、種別（プレハブ等）などのデータを整理・集約・可視化する。</li> <li>→施設の維持管理や職員配置等も含めた放課後児童育成クラブの俯瞰的・包括的なマネジメントにつなげたい。</li> </ul>
3	公民館統計データの見える化	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公民館で開催される講座・イベント等の状況（種別、利用者数、時間帯、利用者の年代など）について、各公民館でデータを記録・作成しているが、長年の使用により現在の実態とそぐわないため見直しを行う。</li> <li>●上記見直しを行ったうえで、講座・イベント等の状況に関するデータを整理・集約・可視化する。</li> <li>→講座の見直し（内容や時間帯等）による利用者増</li> </ul>

別表3 (令和7年度実施研修カリキュラム)

講義・座学 / ハンズオン		カリキュラム		令和7年度データ活用利用人材育成研修	
第1回 対面	<b>EBPM概論</b> EBPMの基礎知識(EBPM、エビデンス、ロジックモデル、PPDAC サイクル等)、自治体におけるEBPM事例を学ぶ。		<b>ロジックモデル策定演習</b> 各自、所属部署が持つ行政課題をひとつ例にとってロジックモデルを策定し、ロジックモデルに沿ってアウトプット指標・アウトカム指標を設定する。	7.3(木) 13:10-17:00 【会場】TKP熊本カンファレンスセンター9階「あさがお」 (熊本市中心区花畑町4-7 朝日新聞第一生命ビル9階)	
第2回 オンライン (Teams)	<b>オープンデータの収集から可視化へのプロセス</b> オープンデータを収集し、適切に加工して目的に沿った可視化を行うまでの一連の流れを学ぶ。		<b>e-stat活用</b> e stat の各種機能(検索・統計ダッシュボードによるデータ収集、j stat mapによるマッピング)を使ってみる。	7.9(水) 13:00-15:00	
第3回 オンライン (Teams)	<b>行政課題を把握するための記述統計の基礎知識</b> データの特徴をより分かりやすく表現する記述統計の基礎知識(平均値・中央値、分散・標準偏差、相関係数、クロス集計等)とデータの種類に応じた加工・可視化方法を学ぶ。		<b>データの概形把握と整理演習</b> 複数の匿名指標についてのデータを題材に、データの特徴(代表値・ばらつき・分布・指標間の相関等)を整理し、指標の内容を推理する。	7.17(木) 10:00-12:00	
第4回 対面	<b>+ tableau</b>		<b>BIツール(Tableau)によるデータ可視化演習</b> BIツールの特徴や基本的な機能、操作方法、BIツールの活用事例を学び、実際にBI ツールを用いてデータを適切に加工・可視化してみる。	7.28(月) 13:10-17:00 【会場】熊本市教育センター3階第1研修室(熊本市中心区千葉城町2-35)	
第5回 オンライン (Teams)	<b>一部から全体を知るための推測統計概論①</b> いくつかの要因から一つの結果を予測する重回帰分析の基礎知識、分析目的に応じた適切な手法選択や結果の解釈方法を学ぶ。		<b>因果関係を探し判断するための分析①</b> 実際のオープンデータを用いて、複数の要因が結果にどの程度影響を与えているか調べる重回帰分析を実践してみる	8.6(水) 13:00-15:00	
第6回 オンライン (Teams)	<b>一部から全体を知るための推測統計概論②</b> 立てた仮説が正しいかデータを使って確かめる統計的仮説検定の基礎知識、分析目的に応じた適切な手法選択や結果の解釈方法を学ぶ。		<b>因果関係を探し判断するための分析②</b> 実際のオープンデータを用いて因果関係を探し、起こりえるのか、偶然なのか判断をサポートする統計的検定を実践してみる。	8.20(水) 13:00-15:00	
第7回 オンライン (Teams)	<b>+ tableau</b>		<b>地図・位置情報データの活用とTableauを用いた可視化</b> 地図データ、施設情報、行政保有データを組み合わせ可視化することで、新たなインサイトを得るための手法を学ぶ+実際のデータを用いて、地図可視化を実践する。	8.27(水) 13:00-15:00	
第8回 対面	<b>マーケティングと統計調査概論</b> 市民の興味や行動を理解し、効果的な広報手段を考えるためのマーケティングの考え方や、課題やニーズを把握するための統計調査(市民アンケートなど)で必要となる基礎知識を学ぶ。		<b>調査設計演習</b> 第1回研修で策定したロジックモデルと指標をもとに、不足するデータをどのように調査するか、調査設計を実際に検討してみる。	9.4(木) 13:10-17:00 【会場】熊本市教育センター3階第1研修室(熊本市中心区千葉城町2-35)	